

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	経済学
科目基礎情報						
科目番号	0436		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	材料工学科(2016年度以前入学生)		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	テキスト: 松尾 匡、橋本 貴彦 『これからのマルクス経済学入門』 (筑摩選書) 2016年					
担当教員	藍澤 光晴					
到達目標						
①経済学とはどのような学問かを理解する。 ②マクロ・ミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。 ③経済現象を経済学的に把握する。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	マルクス経済学の概念を理解し、資本主義経済を説明できる。		マルクス経済学の基本概念を理解できている。	マルクス経済学の基本概念を理解できていない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	昨年度までは、いわゆる「近代経済学」の基本概念についての学んできた。そこで本年度の本講義では、マルクス経済学の基本的な考え方を学びます。マルクス経済学の基本的な見方・考え方を修得して、資本主義経済の本質を理解することを目的とします。					
授業の進め方・方法	講義は、基本的に受講生がレジュメを作成し、発表する。発表者以外の受講者には講義中に発言を必ず求める。議論に参加しない受講者は不合格となる可能性がある。成績評価は、発表 (50%)、議論への参加 (20%)、レポート (30%) の割合で算出する。60点以上が合格となる。なお再試は行わない。					
注意点	成績評価はレポートによる。レポートは、マルクス経済学の基本的な概念を論述したうえで、その矛盾を説得的に説明すること。なお基本的な概念は以下の通りである。「史的唯物観」、「階級」、「労働疎外」、「労働価値説」などである。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション			
		2週	階級と所有①	階級と所有の関係について理解できる		
		3週	階級と所有②	同上		
		4週	疎外論と唯物史観①	労働疎外について理解できる		
		5週	疎外論と唯物史観②	唯物史観の公式を説明できる		
		6週	疎外論と唯物史観③	労働疎外を唯物史観のなかで把握できる		
		7週	投下労働価値概念の意義①	労働価値説の基本概念について説明できる		
		8週	投下労働価値概念の意義②	同上		
	4thQ	9週	投下労働価値概念の意義③	剰余価値について理解できる		
		10週	投下労働価値概念の意義④	搾取と労働価値説の関係を説明できる		
		11週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する①	数理マルクス経済学の基本を理解できる		
		12週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する②	同上		
		13週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する③	同上		
		14週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する④	同上		
		15週	まとめ	マルクス経済学を体系的に理解できる		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
		公民		哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	

				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2		
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2		
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2		
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2		
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2		
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2		
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	20	0	30	100
基礎的能力	0	50	0	20	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0